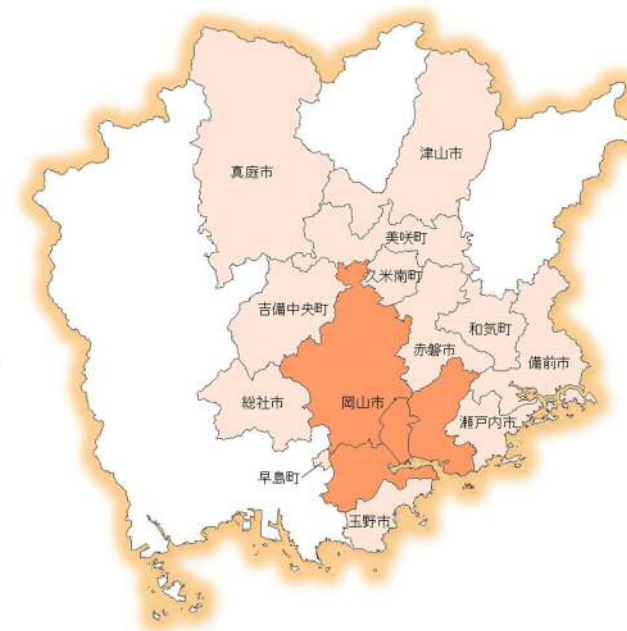


岡山連携中枢都市圏 平成28年度取組結果

～つながり、創造する。

躍動！岡山都市圏～



岡山市

「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ実施事業」

背景

「岡山市地場産農産物の取扱にかかると調査」（H27）では、市民の「地産地消の意味は理解しているが、実践していない」人の割合は80%以上という結果が出ており、市民の地産地消の実践につながる取組が必要。

また、同調査では、生産者は「売り場の確保やイベント開催、新たな販路の拡大など」を希望、回答のあった飲食店のうち77%が「地産地消に関心を持っている」ことが判明しており、この結果を踏まえ、生産者と飲食店を結びつけ、地産地消の拡大に向けた取組の検討を行った。

目的

- 地域の高品質な農産物に対する市民や市内事業者の理解を深め、購買意欲を高める。
- 農業者と飲食店が連携することで、地場産農産物の販路の開拓・拡大につなげる。
- 農業者の顔が見える産直市等を通じて、市民だけでなく、観光客にも農村部の魅力をPRし、岡山地域の農業の魅力発信を行う。

事業費

- 業務委託費 10,000千円（平成28年度 一般財源）※岡山市

<事務事業> 特産農産物PR

「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ実施事業」

内容

- 開催日：平成28年11月6日（日）
- 場所：市内の中心部の公園（下石井公園）
- 出店数：61ブース
- 来場者数：8,000人(主催者発表)

- ・生産者（農産物や6次化商品の販売等）
- ・飲食屋台（地産地消料理・ジビエ料理等）
- ・岡山連携中枢都市圏自治体
（地域農業の歴史や施策の紹介、特産品の紹介等）
→注目企画その1
- ・食や農に関係する高校・大学等（6次化商品の紹介・販売）
- ・若手農業者・女性農業者（農産物や6次化商品の販売等）

地場産農産物の販売、農業者と飲食店のマッチングによる新メニュー披露（→注目企画その2）など、広く岡山地域の農業の取組を紹介する。



<事務事業> 特産農産物PR

「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ実施事業」

注目企画その1：連携中枢都市圏自治体からのブース出展

4市4町から、官民9ブースが出店
猪肉、鹿肉の販売(吉備中央町) 他、
地区の特産品を販売

赤磐市産業振興部農林課 (赤磐市)
農マル園芸 (総社市)
上之町活性化委員会 (久米南町)
加茂川有害獣利用促進協議会 (吉備中央町)
しんまちあきんど (吉備中央町)
牛窓ピーポー (瀬戸内市)
玉野市特産品協議会 (玉野市)
早島町まちづくり企画課 (早島町)
和気町・佐伯りんご園 (和気町)



注目企画その2：農業者と飲食店のマッチング

新たな販路の開拓に
意欲のある農業者
9団体



地元農業者との取引
に意欲のある飲食店
関係者 19店

旬の地元食材を使って、地元料理人が、秋の新メニュー
を創作し、マルシェ当日に披露する企画

- ・農業者と飲食店の顔合わせ (9/21)
- ・飲食店主の農家訪問等 (9/28) を実施
- ・試作したメニューの試食会開催 (10/12)

マルシェ当日には、趣向を凝らした
オリジナルの新メニューを屋台で販売！



▲商談会 (顔合わせ) の様子

<事務事業> 岡山型ヘルスツーリズム拠点化

背景

- 近年、ビザ要件の緩和やLCC（格安航空会社）の就航等により、経済成長が続く東南アジアからの訪日観光客が急増しており、マレーシアやインドネシアからのムスリム観光客も、今後一層増加することが見込まれる。
- ムスリム観光客が旅行の際に、宗教的・文化的な習慣や言語に不便を感じることなく安心して快適に滞在できる、ハラール対応の食事をはじめとした受入環境の整備を図ることが必要。
- 圏域内の吉備中央町では、地方創生加速化交付金を活用して、全国初となるハラール認証のパン製造工場を稼働させ、真庭市でも湯原温泉の温泉宿泊施設がムスリム対応に取り組んでいる。

目的

- 真庭市・吉備中央町と共同で、今後インバウンド市場をけん引されると言われる東南アジア方面からのムスリム（イスラム教徒）観光客に対し、岡山独自の受入体制を整備するとともに、温泉入浴、農業・農村体験や郷土芸能・軽スポーツ等を取り入れた体験メニューを組み合わせ、岡山連携中枢都市圏域で周遊観光パッケージ化し、「岡山型ヘルスツーリズム」として育成・PRすることにより、日本におけるムスリム誘客先進地としての地位の獲得をめざすとともに、体と心がいやされ、活性化される「健康な旅のデスティネーション」として、国内外からの観光客誘致につなげる。

事業費

- 47,000千円（平成28年度 6月補正予算額）
うち 国庫支出金21,966千円（地方創生推進交付金 補助率1/2）

<事務事業> 岡山型ヘルスツーリズム拠点化

実施体制

岡山型ヘルスツーリズム連携協議会

行政機関（岡山市、吉備中央町、真庭市）
ハラル関連事業者、宿泊飲食、食品業者、金融機関、
岡山観光コンベンション協会等

委託

事業化

マレーシア・インドネシアプロモーション

○開催プロモーションの実施

マレーシア・インドネシアでの現地セミナー・商談会



岡山市長、吉備中央町長がマレーシアとシンガポールを訪問、事業を説明

○ファムツアーの実施

現地メディア等を招いて情報発信



マレーシアとインドネシアの旅行会社関係者を招いた視察ツアーを2回実施

企画運営

ムスリムをおもてなしするための岡山独自の受入体制の構築

○飲食店、宿泊施設等へのハラル対応の指導・養成

・岡山おもてなしマニュアル及びおもてなしマーク・ピーチマークの作成



・ムスリムフレンドリー対応セミナーの開催

事業者を対象にムスリムの基本から学ぶセミナーを開催

○ムスリムツアーガイドの養成

ムスリムインバウンドにアテンドする通訳ガイドの養成講座を開講

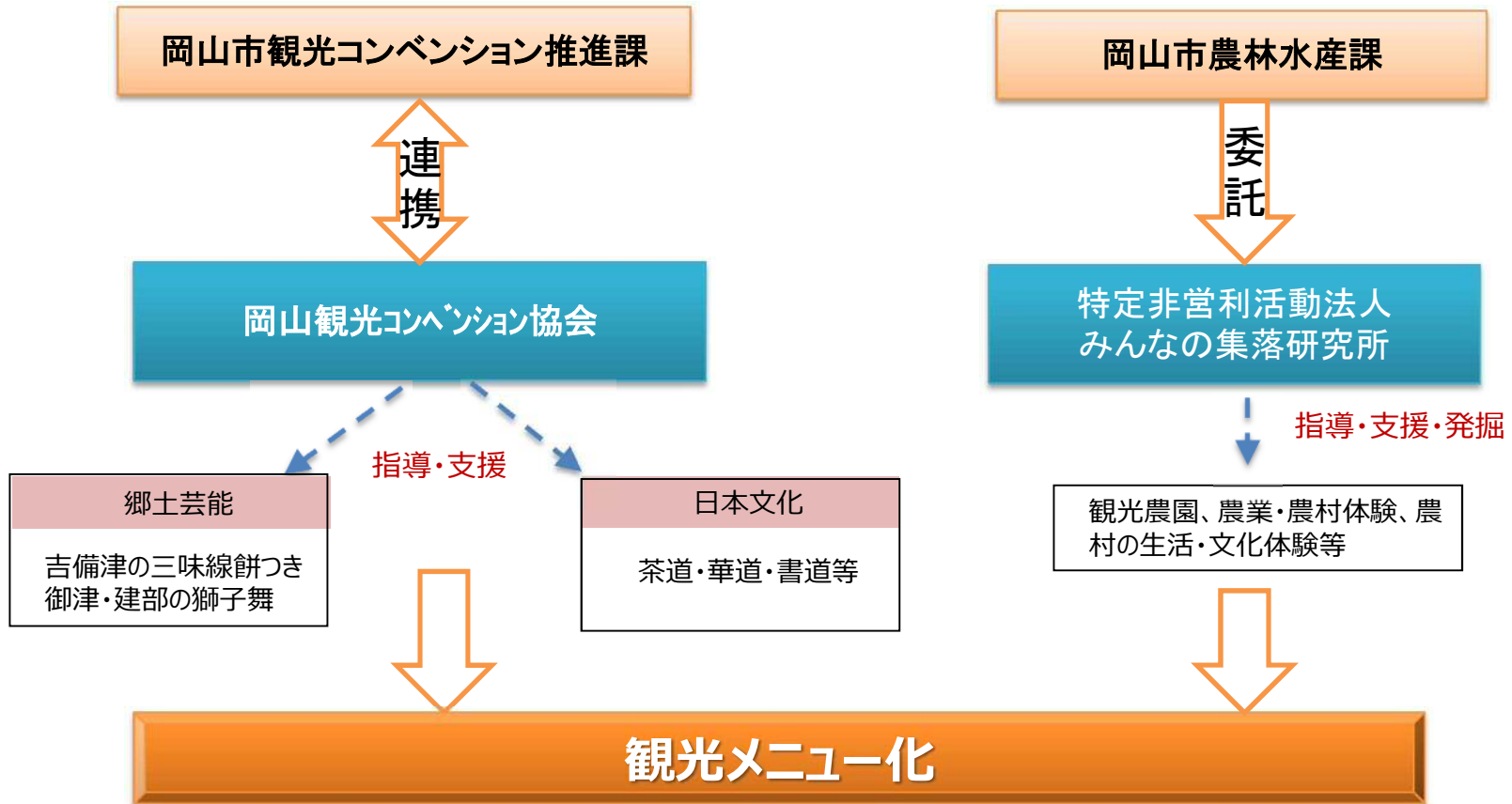
○周知・広報

岡山ムスリムガイドブック・プロモーションビデオの製作、専用HP特設サイトの公開・配信・運営

岡備&ア-レムヘルスツーリズムJV岡山

<事務事業> 岡山型ヘルスツーリズム拠点化

実施体制



○各地区観光協会、商工会等との調整により体験メニュー化の対象となる観光資源をリストアップしメニュー化できたものを随時紹介パンフレットとして作成し、ツアーのオプションとして提供ツアー主催者と体験メニューの関係団体との間で、現地での体験をコーディネート

<事務事業> 移住促進連携事業

合同開催の経緯：

平成26～27年度は岡山市移住・定住支援協議会協力のもと、岡山市単独で移住相談会を実施していた。平成28年度から新庄村が移住相談会に参加したいとの要望もあり、また、移住希望者の多くの方は市域を越えて広域での情報提供や移住支援を求めている傾向にあることから、移住希望者ニーズに応えるため、連携中枢都市圏域内の自治体に参加の有無について確認し、他の自治体と合同で開催することとなった。

①おかやま移住相談会

②おかやま合同移住相談会

<事務事業> 移住促進連携事業

①おかやま移住相談会

- 日時：平成28年5月29日（日） 11:30～17:30
- 場所：東京交通会館3階 グリーンルーム（東京都千代田区有楽町2-10-1）
- 主催：岡山市
- 協力：岡山市移住・定住支援協議会

○参加団体：

移住者支援団体：おいでんせえ岡山、
子ども未来・愛ネットワーク、
岡山盛り上げよう会

住まい：岡山県宅地建物取引業協会、岡山県不動産協会

仕事：(株)グロップ

行政：新庄村、和気町、瀬戸内市、岡山市



○開催実績

来場組数	95組
来場者数	154人
相談件数	190件（延べ件数）



<事務事業> 移住促進連携事業

②おかやま合同移住相談会

- 日時：平成29年1月29日（日）
11:00～16:00
- 場所：東京交通会館12階 カトレアサロンA
(東京都千代田区有楽町2-10-1)
- 主催：岡山市
- 協力：岡山市移住・定住支援協議会
- 参加団体：
 - 移住者支援団体：おいでんせえ岡山、
子ども未来・愛ネットワーク
岡山盛り上げよう会
 - 住まい：岡山県宅地建物取引業協会、
岡山県不動産協会
 - 仕事：(株)キャリアプランニング、
ハローワーク岡山
 - 創業：中国銀行、日本政策金融公庫
 - 行政：津山市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、
和気町、新庄村、吉備中央町、岡山市
- 開催実績：

来場組数	120組
来場者数	194人
相談件数	219件（延べ件数）

